

はさみ菊の実演を食い入るように見つめるドイツの奨学生ら＝熊本市西区



## 和菓子の心「素晴らしい」

ドイツ学術交流会（DAAD）東京事務所の奨学生として日本で研修中の青年11人が13日、熊本市西区春日の老舗和菓子店「御菓子司きくもとや」を訪れ、生菓子の実演などを視察した。

経済界で活躍する人材を育てる独自の国費奨学金プログラム「日本語学習と企業内研修」の一環。1年半の長期研修で、15日まで4泊5日の日程で中国・九州地方を視察中。熊本では日本の食文化を学ぼうと、全国和菓子協会加盟の「きくもとや」を選んだ。

4代目店主の村上賢太郎さん（38）が練り切りで細かい花びらを表現した「はさみ菊」を実演。「表に技を出さず、内側に秘める」と和菓子の美意識を説明した。

看板商品のらくがんや、県産甘夏の果汁をたっぷり使ったかんとんを試食した奨学生らは「おいしい」と喜んでいった。イロナ・ホフマンさん（30）は「和菓子には一生懸命作る人の心が入っている。本当に素晴らしい」と感心した様子だった。（富田ともみ）

独研修生が老舗視察 熊本  
市